

くずまき 議会だより

7月定例会議

2019(令和元)年
8月7日発行
岩手県葛巻町議会

No.187



30年度病院・水道事業決算を認定 2p

町財政の状況と見通しは 2議員が一般質問 6p

町内工事場所を確認 ~所管事務調査~ 8p

広域道路整備を要望 ~岩手地区議員大会~ 12p

笑顔のつどい 34



表紙

葛巻中学校
サッカー部の皆さん
(関連14P)

病院 入院患者減少傾向

収益は5千万円黒字

7月定例会議

7月定例会議は、7月5日から12日までの8日間の日程で行われました。町長から提出された議案は、30年度葛巻病院事業会計と水道事業会計の決算認定や元年度補正予算など8件で、全議員の賛成で原案どおり『決定』しました。一般質問では2人の議員が登壇し、町の対応や考えをいただきました。

介護入院が大幅減

病院会計

30年度決算は事業収益12億5004万円に対し、事業費用が11億9977万円です。5027万円の純利益を計上し、黒字決算となりました。これにより累積欠損金が5億5526万円に減少しました。年間延べ入院患者数は、一般病床が8384人で、前年度より860人減少し、介護療養型病床が2649人で、前年度より2484人減少しました。その要因は、新年度から

地域包括ケア病床へ移行するため、介護療養型病床の減少が大きくなりました。

入院者患者数は減少しましたが、特別利益を3億円計上できたことにより、収益が増加し黒字決算となりました。

地域包括ケアに期待

監査委員の意見

30年度決算は黒字決算となり、累積欠損金が減少しました。前年度まで負債に計上していた新病院建築に係る国庫補助金

30年度病院事業会計決算状況 (税抜き)

区分	30年度	29年度	前年対比
事業収益(a)	12億5004万円	10億7062万円	16.8%
事業費用(b)	11億9977万円	12億5293万円	△4.2%
純損益(a)-(b)	5027万円	△1億8231万円	127.6%
年度末累積欠損金	5億5526万円	6億553万円	△8.3%

などについて、消費税、減価償却費見合い分を精査し、収益化できたことが主な要因です。新年度から厳しい施設基準を満たして、地域包括ケア病床をスタートさせており、町が進める地域包括ケアシステムの実現に期待します。

常任委員会

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、7月9日に病院事業会計決算と水道事業会計決算を審査しました。主な質疑は次のとおりです。

借り入れ金返済予定 葛巻病院

問 新病院建設にかかる企業債の償還見通しは。
答 償還額は全体で27億円。今年度から償還を開始しており、ピークは令和4年度の1億3700万円。

次期水道整備箇所 建設水道

問 江川地区水道完成後の水道整備予定は。
答 次の整備計画は、経営戦略を策定後に、具体的な方向性を示す予定。

水道 江刈地区整備終了

今年6月に完成

維持管理費が減少

水道会計

30年度決算は事業収益1億5628万円に対し、

事業費用が1億9959万円で4331万円の純損失を計上し、赤字決算となりました。これにより累積欠損金が7905



江刈地区水道の水道管布設工事（追鍋橋・栗山地区）

30年度水道事業会計決算状況

(税抜き)

区分	30年度	29年度	前年対比
事業収益(a)	1億5628万円	1億5594万円	0.2%
事業費用(b)	1億9959万円	1億9168万円	4.1%
純損益(a)-(b)	△4331万円	△3574万円	△21.2%
年度末累積欠損金	7905万円	3574万円	121.2%

万円に増加しました。

建設改良工事では、江刈地区水道整備事業を行い老朽施設の更新に努めました。施設整備により、漏水件数が減少するなど修繕費が前年度に比べて480万円縮減となりました。

江刈地区水道整備事業

は、台風災害による復旧工事の影響で追鍋橋部分が今年度に繰り越しましたが、6月に工事が終了し事業は全て完了しています。

安全な水道維持を

監査委員の意見

30年度は赤字決算となり、累積欠損金が増加しました。資産の減価償却費が9266万円であったことが赤字の大きな要因です。当町は面積が広いため、配管の総延長距離が長く、浄水施設が多くなっています。

水道事業会計経営戦略の策定が義務付けられたことから、今後、事業の将来像が示されることとなりますが、全国的に人口減少社会が進む中でも、安全で安心な水道を供給する事業の持続性確保を期待します。

元年度補正予算

会計名	補正額	補正後の予算額
一般会計（第1号）	2億3861万円	72億3078万円

《主な予算の使いみち》

- 長期債償還元金 …… 1億9761万円（起債の繰り上げ返済）
- 任意繰上償還補償金 …… 1392万円（起債繰り上げ返済の利息見合い補償金）
- 地域人材ネット外部専門家招へい業務 …… 350万円（地域活性化の専門家による指導、助言）
- 町道茶屋場田子線開通記念行事実行委員会補助金・300万円（秋まつりに併せて記念行事を開催）
- 町家旧遠藤邸水回り工事 …… 290万円（トイレ、手洗いの設置）
- 小学校校舎修繕工事 …… 270万円（葛巻小学校校舎の漏水修繕）
- 自治総合センターコミュニティ助成金 …… 180万円（車門自治会：テーブル、椅子など）

議員の判断 〈議決結果〉



○ 議員の判断で決定した議案（賛否が分かれた議案はありませんでした）

議案等番号	件名と主な内容	議決結果	賛否
承認1号	町税条例の改正（専決処分）…個人住民税の住宅ローン控除期間を延長する改正など	承認	全員賛成
議案27号	元年度一般会計補正予算（第1号）…2億3861万円を追加して予算額72億3078万円に	可決	全員賛成
議案28号	道路占用料徴収条例等の改正…10月からの消費税率引き上げに伴い、各種使用料、手数料などを改正	可決	全員賛成
議案29号	社会体育館条例等の改正…10月からの消費税率引き上げに伴い、指定管理施設の利用料を改正	可決	全員賛成
議案30号	災害弔慰金支給条例の改正…災害救済資金の貸し付け利率を引き下げる改正など	可決	全員賛成
議案31号	あっせんの申立てに関する議決…東京電力原子力発電所事故による損害賠償343万円の和解あっせんを申し立て	可決	全員賛成
認定1号	30年度国民健康保険病院事業会計決算の認定	認定	全員賛成
認定2号	30年度水道事業会計決算の認定	認定	全員賛成
発委2号	新たな過疎対策法制定の意見書…過疎地域自立促進特別措置法が失効するため、新たな法の整備を求める意見	可決	全員賛成

～ 今ここが聞きたい ～

7月8日に2議員が一般質問を行いました。一般質問は町の行政全般にわたり、事務の執行状況や将来の方針などを幅広い視点から報告や説明を求め質問します。

議員の質問できる時間は1時間以内です。

議事録の内容は町のホームページと議会事務局で閲覧ができます。



しばた いさお 議員
柴田 勇雄

問 町財政の状況と見通しは

答 財政指標良好、基金減少見込み

町の財政動向

議員

葛巻病院、役場新庁舎等大型ハード事業が目白押しの中、町財政運営の動向等について伺う。

町長

29年度決算では、財政健全化法の指標である当町の「実質公債費比率（※）」は5・4割で、県平均の10・5割を大きく下回り、「将来負担比率（※）」でも県平均47・2割に対し、当町は「比率なし（0・0割）」で町の財政状況は良好。

今後の財政運営では、町税等の自主財源をはじめ地方交付税や補助金・交付金のほか、有利な地方債などを活用し「安定的財源確保」に努める。

地方交付税の動向では、6月閣議決定された「骨太方針2019」で、令和3年度までは現水準の地方交付税が確保される見通しで、32億2000

万円程度の交付見込み。基金の積立合計額は、30年度末で58・1億円。これまで公共施設等の更新時期の集中化に伴い、基金への積み増しができなかったが、新病院や江刈地区水道整備事業の完成で、今後は地方債の償還が始まり、基金は減少していく見込み。

今後、公債費負担などの経常経費が見込まれ、行財政運営の効率化と財政基盤の強化を図り、より良い住民サービスの実

現・提供のため第6次行政改革大綱の策定を視野に取り組み。

（※）実質公債費比率
資金繰りの危険度を示す比率。比率が18割を超えると、借入れをするために県からの許可が必要。

（※）将来負担比率
将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す比率。

聖火リレールート

議員

当町が東京五輪リレールートから除外される

た経緯等を伺う。

町長

県文化スポーツ部から「被災した沿岸全市町村でのリレー実施と1日当たりの実施時間・区間数などを考慮し、県内28市町村で実施する内容」との回答があった。

東日本大震災からの復興は、「オール岩手」の精神で取り組んできたにも関わらず、5町村だけが除外された状況は非常に遺憾で残念に思う。

ルートから除外された5町村長で、ルートの再考を県に対し申し入れ、さらに町村会の立場でも再考を強く求めた。

ルート再考については、県もその趣旨を理解の上、全市町村の思いを乗せ、国の組織委員会に申し入れたと認識している。引き続き、県や国の組織委員会のほか、関係省庁等にルートの再考を申し入れていく。



葛巻高校生が参加した昭和39年東京オリンピックの聖火リレー（岩手町）



たつやなぎ けいいち
辰柳 敬一 議員

問

家畜ふん尿の悪臭対策は

答

農家の処理施設整備を支援

ふん尿処理の課題

議員 酪農の環境改善が進む一方、依然として悪臭の苦情がある。解決に向け当局の考えを伺う。

町長 国では、平成11年に「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」を施行し、家畜排せつ物の管理を適正に行い、堆肥としての利用促進や土づくりを基本とした資源循環型農業を推進してきた。

この法律では、一定規模の家畜を飼養する畜産農家を守るべき管理基準が定められ、牛の場合は、10頭以上を飼養する畜産農家に、ふん尿処理施設の設置が義務付けられた。経過措置として、法律の施行から5年間の猶予期間が設けられている。

町では、国や県の補助事業を活用するとともに、町単独事業により畜産農

家が行う堆肥舎等の整備費用を助成するなどして、猶予期間満了の平成16年までに、堆肥処理施設161施設、尿溜施設26基、防水シート9か所の整備が行なわれた。

その後、畜産農家一戸当たりの規模拡大が進んだことなど、畜産経営に起因する悪臭や水質汚濁などの事案が度々発生し、特に、春と秋の堆肥散布作業に対する苦情が最も多く、直近5年間の苦情件数は、ふん尿の悪臭7件、ふん尿の流出4件、野積み等の不適切な処理1件という状況。

町では、苦情が寄せられた場合、原因の畜産農家に対し改善指導を行うとともに、その他の畜産農家に対してもチラシを配布するなど注意喚起を行っている。

毎年、自治会連合会公衆衛生部会と連携して実

施している「環境衛生パトロール」において、盛岡広域振興局や農協など関係機関からも協力を得て、巡回指導を行うなど、畜産農家の環境汚染防止に対する意識高揚に向けた取り組みを進めているほか、完熟後の堆肥の散布、堆肥散布後の速やかな耕起（こうき）についても指導を行っている。

家畜のふん尿処理については、畜産農家の責任において処理することが基本であるが、個々の経営体の規模に見合う処理施設の整備について支援していきたい。

併せて、家畜排せつ物の堆肥化は、「環境保全型農業」や耕畜連携等による「資源循環型農業」の導入に欠かせない取り組みであることから、今後も、ふん尿の完熟堆肥化の推進にも努めていく。



町内を巡回する環境衛生パトロール



現地状況を確認 地域要望の実現へ

8月に完成する町道茶屋場田子線

ハード事業を調査

輝くふるさと常任委員会 所管事務調査

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は6月6日と7日、30年度に完了した事業と元年度に実施する工事場所などの調査のため町内を視察しました。

2日目は県盛岡広域振興局土木部若手土木センター（沖野智章所長）と「県営工事の情報交換会」を開催。鈴木町長、觸澤副町長も出席し、県の道路整備事業などについて意見を交わしました。

茶屋場田子線 8月完成

■ 日目は役場裏から江刈、元町方面を調査。町道茶屋場田子線は、8月中の完成に向けて工事が進んでいます。

江刈中学校校舎改修事業は、校舎の長寿命化と学習環境の快適性向上のため、断熱化などの工事

を行います。そのため、同校へのエアコン設置は、この改修工事と併せて行われます。

栗山地区では、28年台風10号で被災した追鍋橋の復旧を確認。新たに橋脚のない橋に架け替えました。新しい橋に、江刈地区水道事業の繰り越しとなった配管工事が行われていました。

集会施設では、今年整備する山岸公民館の整備予定地と、昨年度整備した泉田自治会館を視察しました。

山村留学生寄宿舎は、生徒の共有スペースである食堂やシャワールームなどを確認。教育委員会から寄宿舎は生徒が自らかまきまりを作り運営することや、生徒の生活相談などに対応する人員体制などの説明がありました。



新しい敷地に整備予定の山岸公民館



- ① 内装に町産材が使われている泉田自治会館
- ② 山村留學生が生活する寄宿舍
- ③ 県工事の市部内の沢砂防ダム

■ 日目は町中心部と田部、小屋瀬方面を調査。

茶屋場定住促進住宅の建設予定地を確認。単身者向け4世帯分の平屋建て集合住宅が9月末に完成予定です。

県工事の砂防事業の市部内の沢と又ナヤ沢も視察。完成が待たれる砂防ダムを間近で確認しました。

道の駅くずまき高原では、旧食堂の産直販売スペース改修とレストラン基本設計業務を確認。「葛巻らしさのあるレストラン建設の構想策定に努めて欲しい」という意見が出されました。

県の発注工事 今年の計画は

2日目の調査終了後、町長と副町長も出席して県との情報交換会を開催

《元年度県事業の内容》

種別	工事の内容	工事等年度
道路事業	国道281号流雪溝(田の沢地区側溝)補修工事	元年度
	国道340号荒沢口橋樑架替工事	29～2年度
	大坊地区(岩手町)道路拡幅工事	25～2年度
砂防事業	又ナヤ沢(平船)砂防事業(ダム1基)	24～2年度
	市部内の沢砂防事業(ダム2基)	21～元年度

しました。冒頭、岩手土木センター所長が今年度実施する事業内容を説明。本町で計画されている事業の内容は左の表のとおりです。砂防事業は又ナヤ沢が来年度、市部内の沢が今年度に完成の計画であるとの説明がありました。

道路事業では、田の沢地区の流雪溝補修工事が今年度、国道340号荒沢口橋の架け替え工事が来年度までに行われる予定です。

今後も県と町が情報を共有しながら、連携して事業を進めて行くことを確認しました。



県との情報交換会(プラトール)

食を活かし地域活性化

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、4月25日に宮城県気仙沼市を視察。東日本大震災からの復興状況やスローフードの取り組みを視察し、今後の町づくりの参考のため研修しました。

海を敵視せず喜ばす

震災復興

気仙沼市は宮城県の最北東端に位置する、カツオの水揚げやフカヒレ生産が日本一の漁業のまちです。東日本大震災では死者1043人、行方不明者214人、住宅2万6124棟の被害がありました。

震災復興計画を作るに当たり、海と生活してきた気仙沼の自然観と、次世代への理念を超えた観念を「海と生きる」とメッセージ化しました。



市の取り組みを説明する小野寺震災復興・企画部長

復興計画の目標を「津波死ゼロのまちづくり」、「早期の産業復活と雇用の確保」、「職住復活と生活復興」、「持続発展可能な産業への再構築」、「スローでスマートなまちとくらし」、「地域に笑顔あふれるまちづくり」と定めて復興事業を推進しています。

地域の課題解決なくして真の復興はないと考え、起業支援や産業再生による雇用の創出、合計特殊

出生率の向上を目指した結婚・子育て支援施策、空き家バンクや地域おこし協力隊などの移住・定住・U・I・Jターン施策など、若者の流出による人口減少対策にも取り組んでいます。

食を通じたまちづくりとして、平成15年3月に国内初となる「気仙沼ス

地域の豊かさに気付く

スローフード

「スローフード」都市宣言をし、資源である食を生かしながら地域活性化を図っています。

スローフード運動とは、伝統的な食材や料理と質の良い食品を守る、質の良い素材を提供する小生産者を守る、子どもたちを含め消費者に味の教育を進めるものです。小学生から高校生までを対象としたプチシェフコンテストの開催、海洋環境アドバイザーによる小学生への海の環境教育の実施、スローフードフェスティバルの開催などを行っています。

メカジキの水揚げ日本一を誇ることから、「気仙沼メカジキ」のブランド化、メカしゃぶ、メカすきなどの商品開発、メカジキ動画を作成して情報発信、大消費地である首都圏でのPR活動などを行っています。

人口減少対策に移住体験

輝くふるさと常任委員会 研修レポート② in 北海道

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、6月17日から19日、北海道鹿部（しかべ）町で移住定住の取り組みを、福島町で議会改革の取り組みを研修し、町の課題の解決策を探りました。

移住を短期間お試し

鹿部町

鹿部町（人口3932人）では、人口減少対策について研修しました。町は、農家は一戸もなく漁業のまちであり、昭和48年に大和ハウス工業がリゾート事業で鹿部町に進出、分譲地販売を開始。主

に関東、関西から定年退職後移住し、平成31年3月末で292世帯、53

2人が住民登録されました。その効果で人口減少

に歯止めがかかった時期もありましたが、近年は

リゾート開発した地域でも高齢化が進んでいます。

町では大和ハウス工業と連携し、鹿部リゾート



リゾート地の別荘を利用したお試し住宅

内の空き別荘をお試し住宅として一定期間、生活体験のために貸し出す取り組みをしています。今後は、若い世代の移住者確保に取り組みます。

投票日を平日に

福島町

福島町議会は二つの常任委員会で議会が運営されています。投票率の向上と投票票の経費の削減を図ることを目的に議会



福島町役場で議会改革の説明を受ける議員

が町選挙管理委員会に要望し、町長・町議会議員の選挙が平日に投票票が実施されています。多くの自治体が日曜日に投票が実施される中、町民から苦情は無いのかとの問いに、期日前投票を有効活用していて、特に問題はありませんといいました。

議員定数については、10人を下回らない人数を確保することが大切であるとの話がありました。

共通課題解決へ

農業・林業振興対策の推進など



大会宣言を行う中崎議長

4市町議会一同に

岩手地区議会議長会（前田隆雄会長・栗石町議会議長）主催による第66回岩手地区議会議員大会が6月27日に滝沢市のビッググループ滝沢で開催されました。地区内の議会議員、来賓に地区内の首長ら約80人が参加し、さらなる地域の発展を相互に確認し親交を深めました。

共通課題を決議

この大会は滝沢市、岩手町、栗石町、葛巻町の4市町議会が、共通する地域課題の早期解決に向けて互いに協力するため毎年開催しており、今年も滝沢市のビッググループ滝沢が会場となりました。

大会では、中崎議長が「議会人は自らの良識を培い、課せられた責務を通じて、住民福祉の向上と国家の繁栄に寄与する。我々の責務がますます重大なることを忘れず、相互協調のもとに課題の実現を図り、豊かで明るい郷土の建設に一層努力する。」と宣言を行いました。

議案では、道路整備な

ど喫緊の課題7項目を各市町の議会議員がそれぞれ提案。本町からは、柴田勇雄議員が「農業振興対策の推進」について活力と魅力のある農業・農村をよみがえらせるために、基盤整備事業など中山間地域の振興対策をはじめ効率的かつ重点的な農業振興対策の推進と、100年先の山村経営を見据えた「林業振興対策の推進」について提案しました。

満場一致で承認された7項目は、県議会議員や県の関係機関、岩手県選出国會議員、国の関係機関に要望を行う予定です。要望の主な内容は左の表のとおりです。

岩手地区連携で

岩手地区議会議長会の要望内容 (要約)

- ① 広域的な観点からの道路の整備促進
- ② 地域振興の観点からの道路の整備促進
- ③ 県立高等学校の存続 (30人学級実施など)
- ④ 効率的かつ重点的な農業振興対策の推進
- ⑤ 森林資源を保全する林業振興対策の推進
- ⑥ 農業農村整備にかかる財源確保
- ⑦ テレビ共同受信施設改修に対する財政支援



提案説明をする柴田議員

岩手地区議会議員大会終了後、龍谷(りゅうこく)大学政策学部教授の土山希美枝氏による「対話と議論でつくる政策議会」と題した講演会が開催されました。

土山氏は、議員と議会の活動を住民が知らない現状を紹介。この現状を変えるために、議会と住民の対話が必要であると話しました。議会報告会を例に、対話の目的や意

住民との対話を学ぶ

～京都龍谷大学・土山希美枝氏の講演～



講演する土山氏

義を企画に生かすことで、テーマにした課題で議会と住民がつながり、問いかけることで住民の発言を引き出し、見えるようにカードなどに書くことで考えが共有できるなど、議会と住民はもっと良い話し合いの場をつくれると強調。

町の課題を知らせ、多様な意見を集めて議会での議論に生かすことなど、今後の議会活動の取り組みに参考となる内容でした。

くずまきの笑顔

葛巻中学校サッカー部の皆さん



葛巻中学校（天間保幸校長・生徒56人）のサッカー部（部員15人）は、6月15日と16日に八幡平市を会場に行われた岩手地区中学校総合体育大会を2位の成績で勝ち抜き、7月13日に遠野市で開催の岩手県中学校総合体育大会へ出場しました。

情報公開

議長が議会の対外的活動をするための経費が議長交際費です。各団体の総会、式典の会費が主なものです。

4月	47,000円	（葛巻高校転入職員歓迎会ほか）
5月	52,500円	（葛巻町商工会通常総会ほか）
6月	11,500円	（自衛隊岩手駐屯地創立62周年記念行事ほか）

次の定例会議は9月6日(金)です。

「くずまき議会だより」は、ユニバーサルカラーとユニバーサルフォントに対応しており、より多くの方に視認しやすく、判読しやすいように配慮して制作しております。一部当たり約72円で作成されています。
印刷：(株)白ゆり 〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ6-1-50

7月定例会議は、令和最初の議会となりました。
病院事業会計と水道事業会計は平成最後の決算となり、今年度の一般会計予算は、補正予算の編成に併せて、年度表示が「平成31年度」から「令和元年度」に変更となりました。
一つの時代が終わることに少しの寂しさを感じながらも、新しい時代がさらに発展するよう期待しています。

広報常任委員会
委員 高宮 一明

編集後記

森林認証した紙を使用しております。

